

運動器リハビリテーション

1. 運動器リハビリテーション

運動器疾患は健康寿命を短くする因子とされており、受傷後は日常生活に何らかの介護が必要となることが少なくありません。当院では、骨折や関節疾患、脊髄疾患を中心にリハビリを提供し、早期から機能改善を図り、在宅復帰や復職といった社会参加を支援いたします。理学療法士や作業療法士を中心に身体機能評価を行い、関節可動域運動や筋力トレーニング、歩行や階段等の日常生活動作練習、自主トレーニングや姿勢・動作指導など、患者様の疾患や生活様式に合わせた個別のプログラムを実施しております。また、退院後の生活や運動のサポートとして、必要に応じ、外来リハビリや訪問リハビリを提供しています。

2. 対象疾患と入院後の流れ

主な対象疾患

・骨折 ・変形性関節症 ・脊柱管狭窄症
・椎間板ヘルニア ・関節の炎症性疾患 など

入院後の流れ

術前

急性期

安定期

術前のリハビリ

疾患に応じて術前の状態を確認・評価します。

早期からのリハビリ

主治医の指示の下、手術の翌日以降からリハビリを開始します。

リハビリ科専門医による回診

リハビリ科専門医による回診が行われ、必要な方はより円滑に回復期病棟へ転科することが出来ます。

退院

外来
リハビリ

訪問
リハビリ

回復期リハビリ

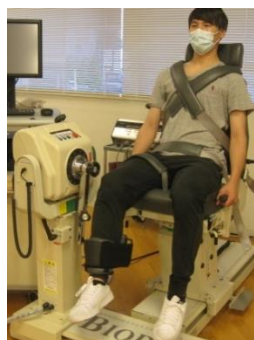
在宅・社会復帰に向けてリハビリを継続します

3. 整形外科疾患に対するリハビリテーション

身体機能の評価

個別のリハビリプログラム作成のため、関節可動域、筋力、疼痛、歩行機能評価などの身体機能評価を行います。

筋力測定にはBIODEXや徒手筋力計（ミュータス）、筋肉の動きなどの観察にはエコーなどの機械も使用しています。



BIODEX



徒手筋力計



エコー

身体機能改善に向けた個別の運動療法

身体機能の改善に向け、関節可動域運動や筋力トレーニング（マシントレーニングなど）、持久力トレーニング（エルゴメーターなど）、歩行練習などを行います。歩行練習では、能力に応じて歩行器や杖などの歩行補助具を使用します。また、荷重制限のある患者様には荷重量の確認できる機械を用いて練習を行います。



マシントレーニング



歩行練習



エルゴメーター



関節可動域運動

物理療法

運動療法とは異なり、特殊な機械等の物理的手段を用いて治療を行います。様々な治療機器があり、目的に合った機械を使用します。使用にあたっては適応や禁忌に配慮し、主治医の許可が必要となります。



超音波治療器

温熱療法、非温熱療法があり、組織の治癒促進や筋の柔軟性改善などの効果が得られます



渦流浴

痛みの改善や血行促進、創傷治癒の促進、リラクセーション等の効果があります



低周波治療器

電気刺激により、痛みの軽減や筋のリラクセーション、筋力強化にも使用されます。

日常生活動作練習

自宅生活に向けて、実際の環境に合わせた日常生活動作の練習を行います。必要に応じて、更衣動作ではソックスエイドやドレッシングエイドなどの自助具を使用し練習を行います。



入浴練習



階段昇降



更衣練習



ソックスエイド